

地域連絡会議下部「新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ」議事録

■日 時：平成 27 年 10 月 19 日（月）12：00～13：40

■場 所：小笠原村役場 A 会議室、村役場母島支所 2 階会議室

■出席者：

小笠原環境計画研究所	坂入 祐子、葉山 佳代
小笠原母島観光協会	西田 美奈子
母島陸域ガイド	早川 保、茂木 雄二、梅野 ひろみ
小笠原村観光協会	金子 隆
NPO 小笠原自然文化研究所	堀越 和夫、佐々木 哲朗
NPO 野生生物研究会	安井 隆弥
(一財) 自然環境研究センター	森 英章
環境省	尼子 直輝、山下 淳一
林野庁	[国有林課] 近江 隆昭 [保全センター] 津田 京子
東京都	[土木課] 藤田 政彦
小笠原村	[環境課] 深谷 雪雄、和田 東、井上 直美 [産業観光課] 持田 憲一
民間	[(株)ブレック研究所] 野口 翠

(敬称略)

■議事録：

(環境省尼子氏より、7 月に開催された科学委員会下部の「新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ」の議論内容について概要を説明)

(自然環境研究センター森氏より、母島におけるツヤオオズアリ防除対策について説明)

<会議の位置づけについて>

- 堀越 (iBo)：本会議の位置づけについて確認したい。ここは意見交換ではなく建設的なワーキングの場である。新たな外来種の侵入・拡散防止のための行動マニュアルの策定やブラックリストの作成等は科学委員会下部のワーキング行うのであって、土やものの集積、移動の状況、工事の実施状況、車両の移動状況等、細かな現場の状況を汲みながら地域の関係者の行動に落とし込む場が、地域課題 WG であるはずだ。この場には、物流を所管するステークホルダーが集まるべきで、港湾課や、産業課にもご参加いただきたかった。また、土を扱う農協関係者、(農協職員、農業者)、母島出張所、営農研修所も参加いただくべきである。
- 尼子(環境省)：今回は外来アリに焦点を当てた議論を行いたく、対策対象地である母島南崎をフィールドにされている方々にお声かけを行った次第である。農協さんをご都合が合わないとのことだったので、事前に説明を行った。また後日フォローアップを行いたい。
- 堀越：土を扱うのは農協が最も多いので、最も重要な関係者が集まれる時に会議を設定すべきではないか。
- 堀越：科学委員会下部 WG としては、対策を進めるにあたり地域の合意形成がなされていないのが課題として認識されているが、この問題への対処が地域課題 WG に振られているのではないか。今年我々が何をすべきなのか。

- 尼子：マニュアルを実効性を持って運用するための社会的合意の形成を目している。
- 堀越：次に話し合いを持つときは、母島村役場と支庁母島出張所、営農研の方が参加するべきである。
- 葉山：後は農業者に参加いただければよいと思う。工事関係者は支庁関係者がいれば網羅されるだろうか。
- 尼子：今後の出席者への呼びかけに際しては留意したい。
- 佐々木：地域連絡会議下部ワーキング地域課題ワーキングのメンバーは固定されているのか。
- 尼子：地域連絡会議構成団体を中心に、議題に応じて適宜関係者にご参加いただく。
- 佐々木：今日出席していないメンバーが、単に都合がつかなかったのか、メンバーに入っていないのか、出席しても自分に向けられた責務を認識していないということもありそうなので、事務局でしっかり対応してほしい。4 年前に地域課題ワーキングの設立準備会を行った際、行政側の必要メンバーが足りていないという理由でストップした経緯があるので、セッティングをしっかりと行ってほしい。
- 早川 (母島ガイド・農業者)：本日、自分はどのような経緯でこの場に呼ばれたか分からなかったので、説明を必死で伺い理解に努めているところである。説明いただいたような専門的な対策の情報は、母島農業者にほとんど届いていない。対策を総合的に進めるならば、情報をきちんと知らせてほしい。

<ツヤオオズアリ対策について>

- 安井(野生研)：ツヤオオズアリ駆除の具体的方法について、チップを多量におけば、トラップや薬剤を使用するより効果的だと思う。
- 尼子：今年度は小面積で薬剤の効果と影響を調査している。結果によって今後の対策方法も変わってくるので、結果を見ながら検討する。南崎の駆除エリア 9ha だけでもかなり広い範囲なので、本腰を入れてとりかからねばならない。
- 葉山(小環研)：ツヤオオズアリは元地集落一帯に分布しており、そこからの拡散をどう阻止するかについては何も対応ができていない。人為で跳躍分散する種であるので、第 2、第 3 の南崎を作らないための手法開発を行ってほしい。
- 深谷 (村・環)：7 月の科学委員会下部 WG 後、事務局会議を開き南崎と北港において緊急防除対策を行うこととなった。特に固有陸産貝類が分布する場にツヤオオズアリを拡散させないための対策については、重要性は認識しているものの、具体的方法を議論する場が設定できていない。対住民に対し、どういった取組が効果的なのかについては、この場にお集まりいただいた皆様の意見も参考に事務局としても一度整理して考えるべきだと思う。
- 堀越：ツヤオオズアリは人間活動の影響で飛び地に移行したと考えられる。どういう行為によってアリが移動する危険性が高いか、共有しておきたい。
- 森 (自然研)：農業用資材や工事事用資材の移動に注意してほしい。コンテナの隙間、コンパネの隙間、植物の根、植木鉢の底、段ボールの隙間など、少しでも隙間があれば営巣可能で

ある。ツヤオオズアリは多女王制であり、一つの巣に数百匹、数万匹と多数の繁殖個体がいるので、一部でも巣を移動させてしまうと分布域が拡大してしまう。一方、自然分散は急速ではない。羽アリは出るが、女王は飛ばずに巣の中で交配を済ませ、働きアリを連れて分散するので拡散は面的な広がりに限られる。従って遠隔地への跳躍分散は人間の活動による可能性が高いと考えられる。父島の分布域を見ても、扇浦、小港、ブタ海岸には分布しているが中山峠や焼き場海岸では確認されていない。海岸沿いに連続して広まっているわけでもなく、山の中に全面的に分布しているわけでもなく、人工物があるところに点々と分布していることが明らかである。靴やザックは、普段家の中に置いているものであればあまり心配ない。外に長く放置した荷物は、営巣している可能性があるため危険である。

- ・ 堀越：母島だとどのようなケースが移動拡散させるリスクが高いか。
- ・ 児嶋(環・母)：移動媒体の一つと考えられるのは、木材パレットである。工業者が、資材置き場、港湾域から農地等へ移動している例があり、そこから分散しているように見える。ほか、木材や角材でもツヤオオズアリは確認されている。ポット苗等もリスクはあると思うが、まだ確認はしていない。
- ・ 早川：アリ駆除のための薬剤散布を行うそうだが、メグロはアリを食べるという説もあるので、メグロに影響があるのではと心配している。営巣中に親が雛に与えるエサの量は多い。
- ・ 尼子：木材パレットはどこが管轄しているものだろうか。
- ・ 藤田(都)：いろいろなパターンがある。資材を置く基礎なので、様々な場所で使用される可能性がある。
- ・ 堀越：母島内で土壌が動く可能性がある場所は、母島におけるプラナリア類対応マニュアルの中で洗い出されているはずだ。そこで、誰が何を管轄しているか調べられていなかったか。
- ・ 野口(PREC)：置かれている場所については把握しているが、管轄や移動の状況までは把握していない。
- ・ 堀越：その物流の情報(集積場所と移動先)を今回の緊急対策に活用してはどうか。パレットや建設資材、残土がどこに集積されどこに移動するか、フロー化されていなかったか。
- ・ 児嶋：母島では把握していない。
- ・ 森：どこに何が置かれているかを逐一細かく把握するまでしなくとも、物資の移動をどのラインで止めるかを整理できればよいと思う。例えば道路工事であれば、発注元から工業者に指示を出し、農業資材であれば産業課から農協を通じて農業者に通知する等、指示系統を明らかにできるとよいと思う。漏れるのは、個人でポット苗等を購入して農地や集落等に持ち込むケースである。各方面に指示を出せる方がこの場に参加すべきである。指示を出せない方については個別にお話しをする必要がある。
- ・ 堀越：行政側で工事事業の全容や物資の流れが把握できていないのならば、地域・民間も協力できない。
- ・ 藤田：土木課で実施する土木工事に関しては、父島から母島に運ぶ資材については、ツヤオ

オズアリがいるとわかっている場には資材を置かないことを徹底している。しかし、これは産業課・港湾課には十分に伝わっていない。まずは、行政が同じレベルに並んでから、地域の皆様にも協力いただくようにしたいと思う。

- ・ 持田(村・産観)：村役場の事業で行われる主な土の移動は、評議平から中野平農業団地に向け、し尿処理場の汚泥を肥料にしたものを運んでいる例がある。中ノ平農業団地で8月に調査した時点ではツヤオオズアリは確認されていない。ただ、それ以降は調査できていないので、建設水道課と連携して継続的な対策を行っていかねばならないと考えている。
- ・ 深谷：建設水道課にはこの話はできていないのが現状である。
- ・ 持田：東京都の産業課の畜産指導所でも堆肥を作り営農研の圃場に入れたり、一部は蝙蝠谷のフルーツランドに運ばれている可能性もあるので確認が必要である。
- ・ 山下(環)：母島にプラナリアを入れないための対策の一環として、母島の一般村民が島外からどのようなものを持ち込んでいるかに関し、アンケートを実施している。進捗はどうか？
- ・ 葉山：内地から家庭用の苗を買っている方や、父島の農協やフローラ、ササモトから土付き苗を持ち込んでいる方も複数いることがわかった。引っ越しでの持ち込みもあることがわかった。
- ・ 佐々木：iBoは、ノネコ捕獲事業で使用するカゴ罠の移動が危険だと認識している。資材を管理しているiboの事務所から山に持ち込む前に、資材を高圧洗浄機を用いて洗浄しているほか、事務所のまわりに駆除剤を配置してアリの生息密度を下げるよう努めている。課題は、ツヤオオズアリの分布している山から籠を持ち帰る際にアリを途中で落とさないための方法である。適当なカバーを探しているが、見つからない。南崎に置いた資材類は移動させないよう指示している。
- ・ 尼子：いただいた情報を外来アリ類の対策マニュアルに反映させると共に、地域の合意形成と適切なステークホルダーの巻き込みを行いたい。
- ・ 佐々木：マニュアルが手元になく、何が問題で対策が進んでいないかわからない。作業の場が見えない。
- ・ 堀越：母島の民間でできることがあるはずなので、どんなことができるか考えたい。
- ・ 茂木(母島ガイド・農業者)：評議平や中ノ平で育てた苗木を都道沿いに移植する仕事を行ったことがある。こうした行為も今後、注意すべきだと感じている。
- ・ 森：侵入の初期段階で駆除を実施することが大事である。拡散元で2か月程対策を継続すれば根絶できることがわかっているので、できるだけ早く、集中的に、物流拠点である資材置き場などでの対策を行ってほしい。
- ・ 堀越：母島でのツヤオオズアリの分布域調査は何割方完了しているのか。
- ・ 児嶋：ツヤオオズアリは、集落地では既に全面的に分布している。去年まではいなかった場所でも、今年秋口には確認されている。村民の方にツヤオオズアリがどういうアリなのかを

周知し、見つけたら通報してもらう等の形で協力いただけるとよい。駆除剤を配り、身の回りのツヤオズアリを駆除いただくなどもできるとよい。農地では、評議平では転々と分布、中ノ平では1か所で見つっているが、それ以外では見つっていない。

- ・ 葉山：人為的な分散を止めればよいというのが、母島でそれができているのは北進線工事のみである。それ以外の工事ではリスクのアナウンスもできていない。誰が声を発するのかも示されていない。危険性の周知が行われていないので、植木鉢を移動してはいけないことを私が個人的に注意できる状況でもない。対策は単純だが、機関の間の連携がとれていない。
- ・ 早川：農業委員の方たちに運動していただこうと思う。ツヤオズアリ対策についてわかりやすい資料を作り、我々が動きやすい説明資料を作ってほしい。
- ・ 持田：農業委員会の総会で資料配布と説明の場を設ける。
- ・ 安井：アリの駆除は始まっているのか。ネズミがチップスを喫食することが予想されるが、ネズミについては、金網を張れば排除できるはずである。方形区の中で試験的に行うよりも、もっと大々的に展開してはどうか。
- ・ 尼子：チップスは駆除のためではなく、ツヤオズアリの生息の有無を確認するためのものである。駆除は毒餌を用いる。
- ・ 森：ベイト型薬剤を用いている理由は、アリが毒餌を巣に持ち帰り、幼虫に食べさせることで巣ごと駆除することを狙っているためである。全面的に対策を実施していない理由は、薬剤が他の土壌生物へ影響を与えることが懸念されるのと、人員の問題である。試験した密度で薬剤を設置する場合、南崎の対象エリアだけで1万個を設置する計算になる。1人1日あたりに交換可能な薬剤は数百個であるため、十分な人員を確保できるかが課題である。
- ・ 安井：アリが好むものを調査して誘引し、ネズミが入らないような金網を作ればよいと思う。人員についてはボランティアを募るのがよい。早急に駆除を行ってほしい。
- ・ 森：今回は緊急対策であったためトリカルネット用いたが、来年度、本格的に稼働する場合は金網を使用したいと思う。ボランティアの参加がどれだけできるかにもかかっているのが、普及啓発が重要である。
- ・ 堀越：基本的な流れとしては①分布調査による生息域の把握、②対策試験による環境影響の把握、③次年度の本格実施に向けたスケジュールの提示であろう。特に民間の土地で行う対策と、行政が行う対策を整理するべきである。12月に開催される科学委員会下部ワーキングまでに整理しないと、間に合わない。すぐにできるのは、ツヤオズアリの脅威に関する説明である。母島の最も大切な財産である固有陸産貝類を毀損しかねない危機であるので、村民意見交換会でもしっかり周知してほしい。
- ・ 深谷：母島村民向けに、充実した資料を準備する。
- ・ 梅野(母島ガイド)：南崎の中でも未侵入の場所と既侵入の場所は明確になっているのか。荷物を置いて休憩しない方がよい場所等があれば母島ガイドに周知していただきたい。ガイドとしても、アリの拡散防止に協力したい。

- ・ 尼子：一時的に荷物を置くくらいでは、女王アリを含むコロニーが移動することは考えにくい。外に数日放置した資材には気をつけていただきたい。詳細な分布エリアの情報は掲示することとしたい。
- ・ 堀越：例えば、挿鉢付近で休憩中に、ポテトチップのくずがついた状態のリュックを地面に置いたら、ツヤオズアリが誘引されるということはあるか。
- ・ 森：そうした状況でコロニーが移動することは考えにくい。ポテトチップに集まるのは繁殖できない働きアリであり、持ち帰って食べるだけで、それほどリスクはない。ただし、普及啓発の点で、落ち葉の上に荷物を置かないこと等は、ウズムシが侵入した場合の対策とも共通するので、心がけていただくことはよいかもしれない。
- ・ 梅野：滞在時間によってアリの付着頭数も変わってくると思うので、経過時間による付着数がわかれば教えてほしい。
- ・ 森：新たに試験を行う必要があるが、分かり次第お知らせしたい。
- ・ 佐々木：車の中に営巣することはあるか。
- ・ 森：ツヤオズアリで確認したことはないが、別の種類では営巣していた例があるので、可能性としては考えられる。
- ・ 佐々木：観光・工事・農業関係、各ジャンルでどういう配慮が必要か整理して示してほしい。それはこの会で、環境省が取りまとめ役として仕切っていくのか。
- ・ 堀越：現地の事情がわかる場で考えていくべきである。
- ・ 深谷：ツヤオズアリのリスクや対策の必要性について、行政内部でも十分に共有できていない状態で本会を迎えてしまったことは反省している。遺産事務局内で、議論の材料を整理したうえで地域の皆様に協力を仰ぎたいと思う。
- ・ 葉山：大量の薬剤を使用する予定とのことだが、フィプロニルは使用量の基準がないので、土壌をサンプリングする等して、環境影響を検証できるようにしておいてほしい。

以上